

【一般口演4】 第16席

御園家古文書について

大阪 森 秀太郎

この度、京都府立総合資料館に寄贈された「御園家古文書」を手にする事ができたので、その概要を報告したいと思います。

この文献は、巻物、手書きの備忘録、鍼術の秘伝、漢方薬の処方、御園家の家系、医療手引の木版書、歌詞等114編に及ぶ膨大な貴重資料で有ります。

その他、使用していた鍼術の道具、冠と衣装等伝統のある御園流の片鱗を知るのに役立つものと考えられます。

本来昔から医師は漢方薬等の薬物治療と鍼灸等の物理治療が車の両輪のように使われていて、現在の鍼灸師のように変則的な物でなかった事も頭に入れないと、御園流鍼術だから「鍼術」だけと思う方が間違っています。

只薬物に重点をおいたのか鍼に重点をおいたのか其れは知る由も有りません。

此の資料中、脈診、腹診、経穴、刺針方等の資料があり、断片では有りますが、流派の特徴を示すものとして注目されるものが含まれています。

特に腹診については大きな特徴があります。無分齋と御園意齋の関係は本書でも明らかで有りません。次に有名な打鍼法ですが、この資料では一般の豪鍼も使用されていたようで、打鍼だけでは無かったようです。

非常に特徴のあるものとして刺鍼法があります。例えば第1術 雨水分流、第2術 海水湧仏、第3術 山畔徐降、第4術 折指鼓動等々11術の刺法の秘伝があり、使用する経穴も30穴に通ぎないと書かれていて他に見られないものがあります。御園流に限らず江戸時代には多くの鍼術の流派が生まれましたが、これらの流派がどのような特徴を持っていたか今後の研究に待たねばなりません。